Givery, Inc.

事前セットアップガイド

AI駆動開発Claude Code研修　株式会社インフォメーション・ディベロプメント様向け

期限**11月9日（月）まで** | 所要 [60min]前後 | 作業する場所WSL2のUbuntu22.04 | Day1 2026年11月10日（火）

事前セットアップの分担

貴社の全社手順

ツールを導入する

WSL2、Ubuntu22.04、OpenJDK 17、Maven 3.9.15、Claude Code、VS Codeと拡張機能を入れます。

このガイド

確かめて、足りないものを足す

入ったものを確かめ、unzipと文字コードの設定を足し、Day1の配布ZIPを展開してブラウザで開きます。

全社手順に無い設定が漏れていると、Day1の最初の演習で止まります。全社手順を済ませた方も、Step 3のunzip、Step 4の文字コード、Step 5のログイン、Step 7の展開は必ず行ってください。Copilot CLIは研修で使いません。入っていても支障はないので、外す必要はありません。

11月9日（月）までに済ませてください。5つの完了条件のどれかがそろわない方は、どのStepで止まったかを、研修事務局へお知らせください。前日までにご連絡いただければ、開始までに解消できます。

7つのStep

上から順に進めてください。待ち時間が大半なので、ほかの作業をしながらで構いません。Step 7で全体がつながっているかを確かめます。

Step	中身	全社手順との関係
1	WSL2とUbuntu22.04の確認	入っている。確かめるだけ
2	OpenJDK 17とMaven 3.9.15の確認	入っている。確かめるだけ
3	unzipとpython3の確認と導入	unzipを足す
4	文字コードの設定	全社手順に無い。必ず行う
5	Claude Codeの確認と、研修用の組織でのログイン	入っている。ログインを行う
6	VS CodeのWSL接続	入っている。確かめるだけ
7	Day1の配布ZIPの展開と、お題カードの表示	新しく行う

Step 1 WSL2とUbuntu22.04の確認

STEP 1 **Ubuntu22.04のターミナルが開く** [5min]

なぜ要るか

研修でClaude Codeを動かすのは、Windowsの中のUbuntu22.04です。貴社の全社手順で入っているはずなので、ここでは確かめるだけです。このPCには`Ubuntu`と`Ubuntu-22.04`の2つの環境が入っています。Claude Codeが入っているのは`Ubuntu-22.04`だけです。`Ubuntu`の方を開くと、claudeが見つからず、配布フォルダも見えません。研修の間は、いつも`Ubuntu-22.04`を開いてください。

手順

Windowsのコマンドプロンプト

スタートメニューでcmdと入れて`コマンド プロンプト`を開き、次を打ちます。

コマンドプロンプト

```
wsl --list --verbose
```

`Ubuntu-22.04`の行のVERSIONが2なら入っています。`Ubuntu`という行も並びますが、そちらは研修では使いません。行が無いときは、貴社の全社手順のWSL2とUbuntu22.04の導入に戻ってください。

Ubuntu22.04のターミナル

同じコマンドプロンプトで次を打ち、Ubuntu22.04に入ります。スタートメニューから開くときは、名前に22.04が付いたアプリを選んでください。

コマンドプロンプト

```
wsl -d Ubuntu-22.04
```

プロンプトが`ユーザー名@ホスト名:~$`の形ならUbuntu22.04の中です。続けて次を打ちます。

Ubuntu22.04のターミナル

```
lsb_release -d
echo $WSL_DISTRO_NAME
sudo apt update
```

`Ubuntu 22.04`で始まる行と、`Ubuntu-22.04`の行が出ます。2行目が今いる環境の名前です。`Ubuntu`とだけ出たら、別の環境を開いています。`exit`で抜けて、`wsl -d Ubuntu-22.04`から入り直してください。sudoのパスワードは、Ubuntu22.04を入れたときに決めたものです。

確認

- [ ] `wsl --list --verbose` でUbuntu-22.04のVERSIONが2
- [ ] `lsb_release -d` に `Ubuntu 22.04` と出る
- [ ] `echo $WSL_DISTRO_NAME` が `Ubuntu-22.04` を返す

Step 2 OpenJDK 17とMavenの確認

STEP 2 javaとmvnのバージョンが返る [3min]

なぜ要るか

Day2の配布フォルダは、勤怠・工数管理システムKINTAIのJavaのプロジェクトです。演習はClaude Codeの振る舞いを見比べるので、ビルドは発展課題でだけ使います。全社手順で入っているので、確かめるだけです。

手順

Ubuntu22.04のターミナル

```
java -version
mvn -v
```

`openjdk version "17.` で始まる行と、`Apache Maven 3.9.15` の行が出れば入っています。

> **Tips** `mvn: command not found` と出たら、全社手順のMavenの節にある `~/.bashrc` への追記が済んでいるかを確かめてください。追記したあとは `source ~/.bashrc` を打つか、Ubuntu22.04を開き直します。

確認

- [ ] `java -version` が17系を返す
- [ ] `mvn -v` が3.9.15を返す

Step 3 unzipとpython3の確認

STEP 3 unzipとpython3が動く [5min]

なぜ要るか

配布ZIPはUbuntu22.04の中でunzipを使って展開します。全社手順にはunzipが入っていません。python3はUbuntu22.04に最初から入っていて、演習で作る画面をブラウザに配るときと、Day2とDay3のHooksで使います。

手順

Ubuntu22.04のターミナル

```
sudo apt install -y unzip
unzip -v | head -1
python3 --version
```

`UnZip 6.00` で始まる行と、`Python 3.10` で始まる行が出れば済みです。すでに入っている場合、aptは何も変えずに終わります。

> **Tips** python3に追加のライブラリは入れません。研修のHooksとツールは、python3の標準の機能だけで動くように作ってあります。

確認

- ☐ `unzip -v` がUnZip 6.00を返す
- ☐ `python3 --version` が3.10系を返す

Step 4文字コードの設定

STEP 4 **locale charmapがUTF-8を返す** [3min]

なぜ要るか

全社手順には無い設定で、必ず行ってください。Ubuntu22.04の初期状態のままだと、文字コードがUTF-8になっていないことがあります。そのまま進めると、日本語のファイル名や、Claude Codeが書いた日本語が `?` に化けます。

手順

Ubuntu22.04のターミナル

```
locale charmap
```

`UTF-8` と返れば、何もしなくて構いません。Step 5へ進んでください。`ANSI_X3.4-1968` など別の値が返ったら、次の3行を打ちます。

Ubuntu22.04のターミナル

```
echo 'export LANG=C.UTF-8' >> ~/.bashrc
source ~/.bashrc
locale charmap
```

最後の行で `UTF-8` と返れば設定できています。

確認

- ☐ `locale charmap` がUTF-8を返す

Step 5 Claude Codeの確認と研修用の組織でのログイン

STEP 5 **claudeを起動すると入力欄が出る** [15min]

なぜ要るか

研修の主役になる道具です。Claude Codeは全社手順で入っていますが、使うには研修用の組織のアカウントでのログインが要ります。

研修事務局から、研修用の組織への招待のメールが届きます。招待を承認したアカウントでログインしてください。無料のClaude.aiのプランではClaude Codeを使えません。招待が届いていない場合は、セットアップを始める前に研修事務局へお問い合わせください。

手順

Ubuntu22.04のターミナル

```
claude update
claude --version
```

1行目で最新版にし、2行目で版を確かめます。`Claude Code is up to date` か `Successfully updated` で始まる行のあとに、`2.1.300 (Claude Code)` のような版が返れば済みです。

`command not found` のときは、全社手順のClaude Codeの節に戻ってください。ほかの表示が出たときは先へ進み、研修事務局に知らせてください。

続けてログインします。

Ubuntu22.04のターミナル

```
claude
```

1. 最初に文字の色の選択（Choose the text style）が出たら、Enterで既定のまま進めます。
2. ログインの方法を聞かれたら、`Claude account with subscription` を選びます。
3. ブラウザが開いたら、招待を承認したアカウントでログインし、Claude Codeからのアクセスを許可します。WSLではブラウザが開かないことがあります。そのときは、ターミナルに出るURLをコピーしてWindowsのブラウザに貼ってください。
4. 許可のあとにブラウザにコードが出たら、コピーしてターミナルに貼り、Enterを押します。

5. フォルダを信頼するかを聞かれたら、↓キーで `Yes, I trust this folder` を選んでEnterを押します。最初はNoの側が選ばれています。

6. ターミナルに戻り、入力欄が出ていれば済みです。

7. `/exit` と打って、いったん終了します。

> **組織の選択に気をつけてください。** ログインの画面で組織を選ぶ欄が出たら、研修用の組織を選びます。個人のアカウントや別の組織でログインすると、研修の利用枠を使えません。

確認

- [ ] もう一度 `claude` を起動したとき、ログインを求められずに入力欄が出る

Step 6 VS CodeのWSL接続

STEP 6 **VS Codeの左下にWSL: Ubuntu-22.04と出る** [5min]

なぜ要るか

研修では、WindowsのVS CodeをUbuntu22.04につなぎ、VS Codeの中のターミナルでClaude Codeを動かします。
ファイルの中身やClaude Codeの変更は、VS Codeの画面で読みます。VS Codeと拡張機能は全社手順で入っているので、ここではつながるかの確認だけです。

手順

1. WindowsでVS Codeを起動します。

2. 左下の `><` のアイコンを押し、`Connect to WSL using Distro...` を選びます。日本語の表示では `ディストリビューションを使用してWSLに接続...` です。

3. 一覧から `Ubuntu-22.04` を選びます。初回はVS Code Serverのダウンロードが自動で始まり、数分かかります。

4. 左下に `WSL: Ubuntu-22.04` と出たら、つながっています。

5. `ターミナル` → `新しいターミナル` で、画面の下にターミナルが開きます。研修では、ここでclaudeを起動します。

> **Tips** 拡張機能のWSL（`ms-vscode-remote.remote-wsl`）が入っていないと、`Connect to WSL using Distro...` が出ません。全社手順のVS Codeの節で入れてください。

> **Tips** 左下が`WSL: Ubuntu`と出ていたら、別の環境につながっています。配布フォルダが見えず、ターミナルでclaudeも使えません。左下の表示を押して接続を閉じ、`Connect to WSL using Distro...`から`Ubuntu-22.04`を選び直してください。前回開いたフォルダをそのまま開き直すと、前回と同じ環境につながることがあります。

確認

- ☐ VS Codeの左下に`WSL: Ubuntu-22.04`と出る
- ☐ VS Codeのターミナルのプロンプトが`ユーザー名@ホスト名`の形

Step 7 Day1の配布ZIPの展開とお題カードの表示

STEP 7 **ブラウザにDay1のお題カードが出る** [10min]

なぜ要るか

Day1の演習で使う配布フォルダを置き、ここまでの6つがつながっているかをまとめて確かめます。当日の演習でも、同じ手順で作った画面をブラウザで開きます。

手順

Windowsのブラウザ

教材サイトのトップのDay1の欄から`idcc-day1_20261110.zip`をダウンロードします。保存先は既定の`ダウンロード`のままで構いません。

Ubuntu22.04のターミナル

Ubuntu22.04のターミナル

```
cd ~
cp /mnt/c/Users/*/Downloads/idcc-day1_20261110.zip ~/
unzip -o idcc-day1_20261110.zip
ls ~/idcc-day1
```

`~/idcc-day1`ができ、`index.html`、`data`、`はじめにお読みください.md`が並べば展開できています。ZIPの中身が`idcc-day1`のフォルダから始まるので、展開先は指定しません。

Windowsの側からも確かめます。エクスプローラーのアドレス欄に`\\wsl.localhost\Ubuntu-22.04\home\ユーザー名`と打つと、Ubuntu22.04のホームが開きます。ここに`idcc-day1`が見えれば、置いた場所は正しい環境です。見えないときは、`Ubuntu`の方の環境で展開しています。Ubuntu22.04のターミナルで、このStepの手順をやり直してください。

続けて、お題カードをブラウザに配ります。

Ubuntu22.04のターミナル

```
cd ~/idcc-day1
python3 -m http.server 8000
```

`Serving HTTP on 0.0.0.0 port 8000` と出たら、Windowsのブラウザで次のURLを開きます。

ブラウザのアドレス欄

```
http://localhost:8000/
```

「このページがブラウザに出ていれば、事前セットアップの確認は完了です。」と書かれたお題カードが出れば成功です。確かめたら、ターミナルでCtrl+Cを押して止めます。



図1：お題カードが出た状態。この画面が出れば、ここまでのStepはつながっています

VS Code

WSLにつないだVS Codeで `ファイル` → `フォルダーを開く` を選び、`/home/ユーザー名/idcc-day1` を開きます。左のエクスプローラーに `data` と `index.html` が見えれば済みです。

> **Tips** Day2とDay3の配布ZIPも、同じ `cp` と `unzip -o` の手順で展開します。ZIPは各回の前日までに教材サイトのトップに置くので、前日までにダウンロードしておいてください。展開は当日の開講の時間に、ガイドの手順で講師と一緒に行います。ZIPはホームに残しておきます。

確認

- ☐ `~/idcc-day1` で `python3 -m http.server 8000` を動かし、Windowsのブラウザで `http://localhost:8000/` のお題カードが開く
- ☐ VS Codeで `~/idcc-day1` を開ける
- ☐ エクスプローラーで `\\wsl.localhost\Ubuntu-22.04\home\ユーザー名` に `idcc-day1` が見える

完了条件

CHECK **11月9日（月）までに、5つがそろっていれば準備は完了です**

- [ ] VS CodeがWSLにつながり、`~/idcc-day1`を開ける（Step 6）
- [ ] `claude`を起動すると、ログイン済みの状態で入力欄が出る（Step 5）
- [ ] `locale charmap`が`UTF-8`を返す（Step 4）
- [ ] `~/idcc-day1`で`python3 -m http.server 8000`を動かし、Windowsのブラウザで`http://localhost:8000/`のお題カードが開く（Step 7）
- [ ] `java -version`が17系、`mvn -v`が3.9.15を返す（Step 2）

研修中のClaudeの利用量

研修では、研修用の組織の利用枠を全員で使います。研修の演習は、応答を短くさせる設定と、同時に動かすAIを1体までに絞った手順で作ってあります。研修の時間の外で長く使い続けることは控えてください。

事前セットアップで行うのは、Step 5のログインの確認までです。ログインできたら、Claudeに作業を頼まずに`/exit`で終了して構いません。利用量の見方は、Day1の最初に講師が見せます。

つまずいたとき

claudeというコマンドが見つかりません

パスがまだ効いていません。`exit`でUbuntu22.04を抜けて開き直してください。それでも変わらないときは、全社手順のClaude Codeの節にある`~/.bashrc`への追記を確かめます。

UbuntuとUbuntu-22.04を取り違えました

症状は、claudeが見つからない、配布フォルダが見えない、VS Codeの左下が`WSL: Ubuntu`と出る、のどれかです。ターミナルで`echo $WSL_DISTRO_NAME`を打ち、`Ubuntu-22.04`と返るかを確かめてください。`Ubuntu`と返ったら、`exit`で抜けて`wsl -d Ubuntu-22.04`で入り直します。配布ZIPの展開も、Ubuntu22.04の中でやり直してください。

ログインのあと、組織や利用枠のエラーが出ます

研修用の組織への招待を承認していないか、別のアカウントでログインしています。Claude Codeの入力欄で`/logout`と打ってから`claude`を起動し直し、招待を承認したアカウントでログインしてください。

ZIPのコピーで「そのようなファイルはありません」と出ます

ダウンロードの場所が既定と違うか、ファイル名が変わっています。次のコマンドで探せます。

Ubuntu22.04のターミナル

```
ls /mnt/c/Users/*/Downloads/ | grep idcc
```

見つからないときは、エクスプローラーでZIPの場所を確かめます。`C:\Users\yamada\Downloads` なら `/mnt/c/Users/yamada/Downloads` と読み替えてください。

日本語のファイル名が記号の羅列になっています

Windowsのエクスプローラーで展開してからUbuntu22.04へコピーすると起きます。`rm -r ~/idcc-day1` でいったん消し、Step 7のとおりUbuntu22.04のターミナルでunzipを使って展開し直してください。文字が化けるときは、Step 4の文字コードの設定も確かめます。

ブラウザでlocalhost:8000が開きません

まず、ターミナルに `Serving HTTP on 0.0.0.0 port 8000` が出ているかを見てください。出ているのに開かないときは、Ubuntu22.04の別のターミナルで `curl -I http://localhost:8000/` を打ちます。`200 OK` が返るなら、WindowsとWSLの間の通信の問題なので、当日の開始前にご相談ください。

ポート8000が使用中と出ます

前に動かした `python3 -m http.server` が残っています。そのターミナルでCtrl+Cを押して止めてください。見つからないときは、`python3 -m http.server 8001` のように番号を変え、ブラウザでも `http://localhost:8001/` を開きます。

会社のPCで管理者権限がありません

研修で使うPCは、管理者権限のある共通ユーザーで準備していただく前提です。unzipの導入にsudoが要ります。導入できない場合は、研修事務局へご連絡ください。

詰まったところを問い合わせたい

次の2つのコマンドの出力を添えて、研修事務局へご連絡ください。どのStepで止まったかも書いてください。

Ubuntu22.04のターミナル

```
claude doctor
locale
```

`claude doctor` は、Claude Codeの導入と設定の状態を診断します。出力にアカウントのメールアドレスが含まれる場合は、その行を消してから送ってください。

© Givery, Inc.

※お題カードと勤怠工数のデータは、研修のために作った架空のものです。